

□海外文献紹介□

経静脈性脂肪投与のヒト膵外分泌に及ぼす影響

Effect of intravenous lipid on human pancreatic secretion: *K Edelman, et al* (Gastroenterology 85: 1063-1066, 1983)

経口摂取が不能であったり、望ましくない疾患においては、経静脈性など非経口的な栄養補給がなされる。最近では糖質、アミノ酸などのほかに脂肪も経静脈投与が行われるが、こういったことは、急性膵炎など本来膵外分泌を刺激することが望ましくないときにも必要となることがある。殊に脂肪をこういった疾患で経静脈にせよ投与する場合、最も

懸念される。事実 Konturek らは、イヌにおいて経静脈的に脂肪を投与した場合、膵外分泌を刺激し、更に消化管から脂肪を投与した場合も、膵外分泌の刺激は、吸収された脂肪成分が重要な役割を演ずると述べている。そこで本論文では、ヒトにおいて、種々濃度を変えた経静脈性の脂肪の投与が、果たして膵外分泌を刺激するか否か、また消化管投与された場合本当に吸収された脂肪成分が、膵外分泌を刺激するか否か実験された。

実験は健康人に Dreiling の二重腔を持ったチューブを飲ませ、各種濃度を持った脂肪を点滴静注したり、腸内に脂肪投与したうえで、更

に脂肪の点滴静注を加えたりして行われた。結果としては経静脈性の脂肪投与は、何らヒトにおいては膵外分泌を刺激せず、また腸内に投与された脂肪による膵外分泌の刺激は、更に経静脈性に脂肪を投与しても何の影響も受けないことがわかった。これらヒトとイヌとの結果の違いは、単なる種族の差か否かなお不明であるが、ともかく急性膵炎などで非経口的に脂肪を投与しても、望ましくない膵外分泌刺激は起こらず、安全にバランスのとれた栄養補給が可能であることが判明した。

(愛知県がんセンター第1内科
久野信義 抄)